

(別紙5)

# 調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

訪問調査日	平成19年11月12日
調査実施の時間	開始 10 時 00分 ~ 終了15 時 00分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホームみなづる (福島県)
-------------------	----------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>熊谷まゆみ</u>
	氏名 <u>大野恒夫</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>佐藤光彦</u> ヒアリングを行った職員数 ( 5 人)

**※記入方法**

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

**※項目番号について**

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

**※用語について**

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

〔認知症対応型共同生活介護用〕

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成19年11月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	07702011345
法人名	会津若松市社会福祉協議会
事業所名	グループホームみなづる
所在地	会津若松市河東町郡山字中子山2番地 (電話) 0242-75-550
評価機関名	会津医療生活協働組合
所在地	福島県会津若松市東千石1丁目2-13
訪問調査日	平成19年11月12日

【情報提供票より】 (平成19年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	11人
利用定員数計	9人
常勤	8人
非常勤	3人
常勤換算	8.7

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り
	2階建ての ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,900	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	〇無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250円	昼食	250円
	夕食	300円	おやつ	100円
	または1日当たり		900円	

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1	要介護2	2		
要介護3	4	要介護4	2		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 76歳	最低	74歳	最高	91歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	財団法人 竹田総合病院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

和風民家を改修した建物は襖や障子が残され「我が家」を感じさせる居心地の良いたたずまいであった。地域密着型への移行に伴い「地域の中で自分らしく生活できる介護」の理念を加え、地域での関係構築、通所介護サービスの開始など新しい理念に添った取り組みが行われていた。開所当時の職員が管理者を除いて全て入れ替わったがチームワークよろしく利用者とのなじみの関係ができており利用者の表情は穏やかだった。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果を全職員で検討し質の向上につなげていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で一項目ずつ話し合い改善項目を出し合い評価の意義が活かされて
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	2ヶ月に1回定期的に開催され活発な意見交換が行われている。出された意見については職員で検討しその結果を報告し会議の内容が運営に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議や面会時、など家族の意見や要望を聞くように努力している。家族のアンケートからも職員は家族とよく話合っていることが理解できた。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	管理者は常に行政や消防署と連絡をとりあっていて利用者は学校の授業参観や地域の行事に積極的に参加している。地域から認知症についての講師依頼もあり認知症関連ではなくてはならないホームになっている。

## 2. 調査報告書

氏名 熊谷まゆみ

同行調査員氏名

大野恒夫

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの必要性を踏まえて職員で話し合い「地域の中で自分らしく生活できる介護」という理念を新たに加えて生活を支援している。		新たな理念がホーム内に掲示されていたが重要事項説明書にも書き加えてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の利用者との関係を振り返る時に理念と結合させて話し合い、理念を実践に活かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	幼稚園や学校の行事、敬老会など地域の催し物に積極的に参加し交流を深めている。隣組にはみなづる通信を毎月手配りしてる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を全職員で理解し一項目ずつ丁寧に検討し改善項目を出し合いサービスの向上に向けて話し合いをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回開催し活発な意見交換がされている。出された意見を検討し、対応するなど会議をサービスの向上に活かしている。</p>		
6	9				
<p><b>4. 理念を実践するための体制</b></p>					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホームでの生活ぶりがわかりやすくまとめられているみなづる通信や近況報告など毎月家族に届けている。面会時にも家族と話し合いをしている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や毎朝の打ち合わせ、運営推進会議などで意見や不満、苦情など気軽に話せる雰囲気を作っており出されて意見については職員会議で検討し改善につなげている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は極力ないよう配慮しているが交替があった場合は影響を少なくし、なじみの関係をつくれるよう職員間でよく話し合っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年度初めに内部の研修計画を立て毎月職員が交代で研修を企画立案し研修意欲を高めている。外部の研修にも交替で参加している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>福島県のグループホーム連絡協議会に加入し、県、会津エリアでの研修や情報交換会を積極的に行っている。</p>		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>			
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者を人生の先輩として敬いながら畑仕事や調理の仕方など利用者から教わりながら共に支えあう関係をつくっている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「認知症のためのケアマネジメントセンター方式シート」を使い共に暮らすパートナーとしての情報を把握している。	○	定点での把握だけでなく日々のケアの中で得た思いや気づきをその都度記録し、シートがいつでも最新のものになるよう期待したい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	常に本人、家族の意見を聞き職員と一緒に話し合いをしチームで介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画担当者、担当介護職員、家族、本人などでモニタリングやカンファレンスを定期的に行いケアプランの原案を話し合い、ケアプラン作成につなげている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>全ての利用者がかかりつけ医である。受診時ホームでの様子や受診の結果報告など家族と連絡をとりあっている。</p>		
19	47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化に伴う指針を作成し、家族、本人に説明し同意を得ている。すべての利用者が終末期までホームで迎えたいと思っている。</p>		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>排泄、入浴介助などさりげなく行われていて言葉掛けも適切であった。記録物は書庫に施錠し保管されている。</p>		
21	52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員は常に利用者が主人公であることを意識し利用者のペースでケアがされており利用者の表情は穏やかで幸せそうだった。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成、買い物調理、食事、後片付けを職員と利用者と一緒に楽しみながら行っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯で規制することなく毎日好きな時間に入浴できる。時にはホーム外の温泉を楽しんでいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者の生活歴を把握し、趣味や役割分担などに生かしている。今年度から始めたふるさと訪問はとても喜ばれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	食材購入、散歩、外食、外出行事など日常的に外出機会を多く設けている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にチャイムを設置し扉が開けば職員が気づくようにし、日中は施錠していない。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月防災訓練を実施し、年2回は消防署員が立ち会っている。行政や消防署とも協力体制ができている。		ホーム周辺の民家と一緒に訓練を試みることも考えて欲しい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は本人、家族と話し合いながら対応している。水分の摂取量など個々人のケース記録に記入している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修のホームのよさがあり、居間や食堂は必要以上に手を加えず、襖や障子など残っており家庭的である。トイレや廊下、玄関周りなどは使いやすく改造されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前になじみのものや愛用品の持ち込みを家族に依頼している。家族の遺影や写真など持ち込まれ掲示されていた。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

グループホーム みなづる

記入担当者名 管理者 佐藤 光彦

評価結果に対する事業所の意見

なし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。